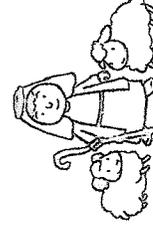
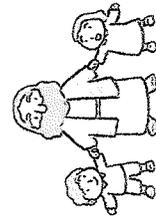


いずみのひろば

2023年5月号
日本基督教団堺教会
NO.532 教会学校



天にまします我らの父よ

(ガラテヤの信徒への手紙4:1-7)

いま、教会学校では「主の祈り」の勉強をしています。
神さまに電話をかけるときは、電話機もスマホもありません。番号を押さなくとも、必ず神さまに繋がります。神さまにかけられる電話が「お祈り」です。電話をかけるとき、最初に相手の名前をいいます。イエスさまも、神さまにお祈りするとき、「アツバ、父よ。」とおっしゃいました。

父というのはお父さんのことです。イエスさまは、親しみを込めて、愛を込めて、神さまのことを「父よ」と呼びかけられました。

でも、天と地を作られた神さまを、気安く「父よ」「お父さん」なんて呼んでもいいのでしょうか？

イエスさまは、神の御子、神さまのひとり子ですから、神さまを「お父さん」と呼んでいます。ところが、イエスさまは、主の祈りを教えてくださったとき、わたしたちにも、神さまのことを「お父さん」と呼んでいいよとおっしゃいました。

わたしたちは、いつも神さまに背いている罪人です。本当は、恐ろしくて、とても神さまのことを「お父さん」なんて呼ぶことはできません。しかし、それでもイエスさまは、神さまのことを「お父さん」と呼んでいいよと教えてくださったのです。たしかに、わたしたちは罪人ですが、わたしたちの罪の身代わりとしてイエスさまが十字架に付けられて復活されました。そして、それによってわたしたちの罪は赦されました。だから、わたしたちも神さまのことを「お父さん」と呼んでもいいのです。

神さまは、わたしたちと何も関係のない、うんと遠くにおられるお方ではありません。わたしたちを救うために、イエスさまを十字架に付けてまで、わたしたちを愛してください。わたしたちひとりひとりのことが大好きなお方です。だから、わたしたちも神さまのことを「お父さん」と呼べるのです。

わたしたちも、いつでも、どこにいても、どんなときでも「ねえ、お父さん、聞いてください。」って神さまにお祈りのできる子どもになりたいものです。

はなし たのおひろしせんせい

(お話し 忠岡博先生)

